



地域の皆様へ

JCHO（ジェイコー）における新型コロナウイルス感染症病床の確保状況について（第2報）

東京城東病院は、国の要請によりコロナ患者を専用に受け入れる病院として、9月30日から運用を開始しました。受け入れの準備として、これまで、リハビリや在宅医療など地域に根差した医療を提供しておりましたので、医師会や近隣医療機関とも連携しながら、約1か月間で患者さんの転院や搬送を丁寧に行いました。また、医師や看護師を、他の医療機関において、実際のコロナ診療にあたっていただくなどの研修も行いました。また、実際の診療にあたりましては、日本慢性期医療協会や都内近郊の大病院及び公的医療機関などの協力により、医師や看護師を派遣いただいております。関係者の皆さまに深く御礼申し上げます。

JCHO 全体としては、これまで、全国に 972 床のコロナ病床を提供しており、このうち都内においては 232 床を提供しております。これは都内全体の JCHO の病床の約 15%にあたります。

いわゆる第5波における患者の受入れについては、各地域の感染状況によって、コロナ患者の受入れのニーズは異なりますが、JCHO 全体で確保病床の6割程度の患者の受入れを行い、ニーズが多い地域では、9割以上の受入れを行った病院もあります。

また、感染拡大の状況に応じて6月では約630人、7月では約900人、8月では約1,800人と患者の受入れを順次拡大しております。

JCHO は、今後とも、救急医療や在宅医療など、地域のニーズを踏まえながら、今後とも新型コロナウイルス感染症対応についても、積極的に役割を果たしてまいります。

令和3年10月7日

独立行政法人地域医療機能推進機構

理事長 尾身 茂